

「南三陸町におけるボランティア活動」

宮城県米谷工業高等学校

1. 活動の概要

本校では、「こころの教育」の理念の下、生徒指導部が中心となり様々なボランティア活動を行っている。今回はその一環として、①近隣で起こった今回の大災害において、その被害を受けた地域や人々を支援することで、社会の一員としての自分の役割を自覚させると共に、他人を思いやる心・互いに支え合いながら共に生きていくことの大切さを認識させる、②自ら進んで社会活動に参加し、災害支援に携わることでボランティアの精神を養う、というねらいのもと、平成23年4月29日(金)・30日(土)、及び同7月2日(土)、3日(日)の4日間、震災で大きな津波被害を受けた宮城県南三陸町に赴きボランティア活動を行った。

今回のボランティアは生徒会が中心となって参加を呼びかけた。活動に参加した教職員と生徒の数は、4月と7月の合計で教職員13名・生徒は延べ179名であった。本校の生徒数の半数以上が参加したことになる。

ボランティア当日の朝、登米市社会福祉協議会や幼稚園などから借用したバスで現地に赴いた。現地では教職員及び生徒をいくつかの班に分けて、南三陸町内のそれぞれの活動場所に向かった。活動場所は南三陸町災害ボランティアセンターと協議して、本校では宮城県志津川高等学校避難所・南三陸町立入谷中学校避難所・林地区避難所や歌津寄木地区・田の浦地区、南三陸町立戸倉中学校・戸倉清水寺(せいすいじ)などが割り当てられた。特に戸倉中学校は、震災の犠牲になった本校機械システム科2年の男子生徒の出身校でもあり、教育委員会に交渉して特別に許可を頂いて清掃活動を行った。



避難所で荷物の運搬を手伝う

活動内容は、高校生が行うボランティア活動ということ踏まえて、危険が伴うものは極力避けた。各避難所では炊き出しの手伝いや物資の運搬の補助、寄木地区では海浜ゴミの撤去および焼却、戸倉清水寺では本堂下の泥の撤去や本堂の水拭きなどを行った。

夕方再びバスに乗って本校に戻り解散となった。いずれの活動日も、生徒たちが事故に遭うこともなく、無事にボランティア活動を終えることができた。

2. 活動の成果等

本校は宮城県内陸北部の登米市東部に位置している。津波被害を受けた南三陸町から車で20分程とそれほど遠くはないが、北上山地に隔てられているため多くの生徒が津波被害の現状を直接目にはしていないわけではなかった。そのため、ボランティア活動当日の朝、学校でバスに乗り込む段階ではまだ笑顔を見せる生徒たちもいた。

しかし、バスが南三陸町に入り津波の痕跡が見え始めると生徒たちの態度が一変した。民家の庭に打ち上げられた船舶、骨組みだけになった防災庁舎、そして基礎だけを残して消えてしまった家々の並び…… いつもはお調子者の男子生徒が声をあげた。「うわあ、ひどい……」 過酷な現実ではあると思うが、生徒たちは実際に被災地の状況を見ることで初めて震災の悲惨さを自分のこととして捉えることができたようである。

また、実際のボランティア活動においては、現地の被災者の方々と交流する機会を持てたことも多くの生徒たちにとって有意義なものとなった。ボランティア後、「悲惨な津波で大切な人、物などを失ってしまい辛いのに、私たちがボランティアに行った時に、笑顔で迎えてくれて一緒に片付けをしました。帰る時に、『ありがとう』と何度も言われた時は、人のために働く事はとても気持ちが良くいいことだと思いました。」といった感想を持つ生徒もいた。つらい状況の中でも力

強く前へ進み、さらに自分たちにも配慮して下さった被災地の方々の姿に触れて、自らの生き方についても考えた生徒も多かったことと思う。



現地の方からお礼の言葉を頂く

また、他県から駆けつけたボランティアの方々と交流を持ち、休日を返上して遠くからボランティア活動に参加する方々の姿を見て、社会人になってからの人それぞれの生き方や価値観の在り方に感動している生徒もいた。

ボランティア活動から5ヶ月過ぎた9月の中旬、本校にひとつの宅配便が届いた。送り主は、4月に清掃活動を行った南三陸町戸倉の清水寺からであった。同封の書簡には「あのときのご恩は一生忘れません。お盆には本堂での行事も行うことができました。皆様方のボランティアのおかげで復興を遂げることができました。心より感謝申し上げます。」(一部抜粋)と認めてあり、生徒さんにお渡し下さいというメッセージとともに数十冊のノートが入れてあった。全校集会で生徒に紹介し改めてボランティアの意義というものを生徒に話した。

「また被災地でボランティアをしたい」震災からまもなく1年となる現在もこのように言う生徒が何名もいる。まさに「こころの教育」が具現化されたと感じた。今回のボランティアを通して感じた「人のために役に立つ」という気持ちを胸に、これから生きていってほしいものである